

「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

活動名	子どもたちの笑顔を明日につなぐ
団体名	特定非営利活動法人 ジョインアス
この活動で取り組んだ地域の課題や背景（※）	古河市地域は、三和・総和・古河が合併して「古河市」になっており、企業も多く産業が盛んである。東京・埼玉・栃木と隣接しているため、仕事を探して移住してくる子育て家庭もいる地域。多子家庭も多くあり生活困窮家庭の相談など、また、県南エリアのフードパントリーに古河から来られる背景があります。
この活動の目的（※）	未来の子どもたちの笑顔を目的や、ひとり親家庭の貧困を支援する目的
活動の対象（※）	ひとり親家庭・生活困窮家庭
実施内容	7月29日 古河市フードパントリー開催 12月2日 古河市クリスマスパントリー開催 フードパントリー以外に、バルーンアート、キッズネイル、廃材を使ったワークショップ、夏は、霞ヶ浦高等学校の高校生が夏の屋台を演出し、かき氷・ポップコーン・水鉄砲など催しを演出。冬は古河第一高等学校の高校生がワークショップなどを演出してくれました。また、フードパントリー会場の「積水ハウス エコファーストパーク」の工場見学をボランティアの高校生たちは、積水ハウス様の方の説明をいただきながら工場見学をさせていただきました。
活動実施後の成果	フードパントリーは、多くのパワーが必要となり今回企業様の敷地を提供して頂く事でその企業様の従業員様、関係する企業様も加わりまた、古河地域の方々にもフードパントリーが浸透したことで、ボランティア 60 名以上が協力するパントリーになりました。ボランティア、プレイヤーが増えることで、子どもたちに廃材を使ったワークショップや、バルーンアート、キッズネイルなどの取り組みにも挑戦できました。 子どもたちには、親が食糧をもらう姿を思い出にさせない。イベントを喜んで帰っていく姿をみて支援する方も支援されるも、みんなが主役になれるイベントになりました。古河のフードパントリーで出会った親子がSNSを通して 3 月には、県南エリアのひとり親家庭等のパントリーに親子でボランティアに来て下さったりしました。 フードパントリーは、ひとり親家庭にとって支援をいただくだけではない、同じ痛みを共感する場所、明日また頑張ろうと思える場所なのかも知れません。

※ 申請書から転記いただいて構いません。

「JAバンク茨城子ども食堂応援助成」活動報告書

今後の展望 や新たに 見えてきた 地域課題	現代社会において、人のつながり、多様な生き方、家族関係がどんどん孤独や孤立を作り、生活、教育の格差が拍車をかけ、子どもたちの劣等感、嘘を重ねどれが自分なのかを見失う子どもたちが増えている。地域が子どもたちに自然に寄り添い、子どもの時にしか味わえない体験・経験を与えていく地域の環境を作る課題があると考えます。
寄付者への 一言（※）	物価高騰の中、支援をいただきありがとうございます。フードパントリーの中身は、子どもたちが家に食糧がない時の為に提供できる支援でもあります。 多くの子どもたちに対応させていただきました。
自己評価 （いずれかに ○を記入）	A. 目標を超える成果を得ることができた B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他（ ）
自己評価で C を記入された 場合、その理由	

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。

※ 活動の様子がわかる写真数枚のデータを別途ご送付ください。

※ その他必要に応じて補足書類をご提出ください。